

## 若手研究者コラムリレー

### 片岡 千恵 (かたおか ちえ)



#### プロフィール

筑波大学体育系 助教  
日本体育学会の専門領域: 保健

石川県生まれ  
2003年 筑波大学体育専門学群卒業  
2015年 筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻修了  
博士(教育学)  
専門は学校保健学, 健康教育学

E-mail: kataoka.chie.gb@u.tsukuba.ac.jp

#### Tsukuba Health Education

野津有司研究室・片岡千恵研究室の  
活動のコンセプトは**READ**

(子どもの心と体を**読む**, 現代社会を**読む**, 将来を**読む**)

- R**esearch 子どもの健康に関する知識, 意識, 行動, 心理社会的要因, 家庭や地域との連携などを調査する。
- E**dutainment 調査データに基づいた, 楽しみながら学べる効果的な健康教育プログラムやカリキュラムを開発する。
- A**ssessment 開発したプログラムを評価し, 査定する。
- D**iffusion 優れた健康教育を普及するための教員養成, 指導者研修, 研究者養成を行う。

#### わたしの研究

##### 子供の健康を保持増進するための教育を考える

総じて言えば多くの子供たちは, 日々元気に, 問題なく過ごしているように見えます。しかし一方で, 我が国の子供たちをめぐっては, 生活習慣の乱れ, メンタルヘルスの不調, 喫煙, 飲酒, 薬物乱用, 性に関する問題, 安全上の問題など, 様々な健康に関わる行動に課題を抱えていることもまた事実です。

私たちの研究室では, こうした行動を健康に関する「危険行動」と捉えて, その実態やそうした行動を防止するための関連要因を明らかにする調査研究を実施しています。

私は, 「危険行動」には様々な要因が関連している中で, 特に規範意識が重要な鍵を握っているのではないかと仮説のもとで研究を進めています。その結果, 最近特に重要視されているセルフエスティームやレジリエンスと比べても, 規範意識の高さが危険行動を強く防止しうることを明らかにしました。そして, この知見に基づいて, 保健教育において危険行動を防止するための授業モデルを構想し, 介入評価研究によってその有効性を示しました。

今後も, 子供たちの健康と安全を守り育てるために, 学校保健学・健康教育学の新しい知を創造し, 発信していきたいと思っています。

#### 主な論文

- ・片岡千恵ほか: 保健授業における養護教諭のチーム・ティーチングの状況—授業の準備, 実施, 評価の各段階に注目して—。学校保健研究 61: 147-156, 2019
- ・片岡千恵ほか: 我が国の高校生における危険行動とSmall Screen Timeとの関連。学校保健研究 59: 172-179, 2017
- ・Kataoka C et al.: Relationships of youth risk behaviors with norm-consciousness and resilience among Japanese high school students. Open Journal of Preventive Medicine 2: 306-311, 2012

#### 研究者(大学教員)を目指す学生・院生のみなさんへ

教え子の学生から, 「なぜ先生は, 大学の教員になったのですか。」と問われたことがあります。「それは, この学問分野で研究がしたかったからに決まってるでしょう。」というありきたりな返事を飲み込んで, 私は「直感と, なりゆきで。」と答えました。

「直感」が働いた転機は, 2度ありました。1度目は, 大学3年生のときに研究室と指導教員を決めるときでした。2度目は, 指導教員から「博士課程に進学しないか。」という言葉が戴いたときでした。いずれの折も, 熟慮した結果と言うより, 未来志向的な直感がもともとあって, その思い通りに行動したことが, 結果的に今につながっていることとなります。日々直感を磨くこと, 内なるそうした感覚をこれからも大切にしていきたいと思っています。

もう一つ, 「なりゆき」というのは少々不謹慎な言い方かもしれませんが, 別の言葉で言えば, 「運」や「運命」, 「ご縁」といったところでしょうか。私は, 修士課程と一貫制博士課程において, 計12年間の大学院生活を送りました。就職などのことは考える余裕も無く, まさに1日1日やるべきことに取り組むだけの日々で, 出口の無いトンネルの中にいるようでした。しかしその成果が少しづつ, 学術論文となり, 学位論文となり, 就職にもつながりました。もちろんこれは, 努力だけではなく, 自分の力を越えた「ご縁」があったからに他なりません。こうした縁は, 誰もが持っている, あるいは早かれ遅かれ誰もにやってくるものと信じています。

○次回のコラムリレーは静岡大学「山崎朱音」さんです。

#### 日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会, 研究会等の開催や報告者募集に関する案内, 公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも, メーリングリストで周知したい情報がありましたら, 下記までご連絡ください。

[taikugakkaiwakate@gmail.com](mailto:taikugakkaiwakate@gmail.com) (担当: 木村)

